

第 17 回 新木地区地域会議」議事録

令和 3 年 6 月 20 日(日)

■開催日時: 令和 3 年 6 月 20 日(日)10:00~12:00

■開催場所: 新木近隣センター 多目的ホール

■議事

<はじめに>

- ・地域会議事務局長 挨拶
- ・まちづくり協議会会長 挨拶
- ・我孫子市長 挨拶

<市民の防災「自分たちのまちは自分たちで守ろう」>

災害救援ボランティア

皆さんおはようございます。皆さんのお手元にある「市民の防災」という冊子ですが、こちらは災害救援ボランティアという団体で私たちが実際に今まで行ってきた訓練の事例集として作りました。市民の目線に立った訓練をして実際の災害に役立てようというのが狙いです。また講習会では基礎的なところを教えてもらえるので、ぜひ参加して各地域の防災に役立てていただけたらと思います。

(以下、冊子の説明については紙面の都合にて割愛)

<自然災害を、常に意識できる環境及び対策について>(グループ討議)

【1 班】

- ・自主防災の結成→コロナ禍で進まない。4-5 人くらいで作りたと思っている。
- ・市/まち協など、行政とのつながりを作ってもらいたい。(年に 4-5 回)
- ・ハザードマップを見ると水災の被害が大きいですが、地域の活動が浸透していない。他の自治会との連携、共助が必要。
- ・水災の被害はないが、電気/水道の被害が心配。若い年齢層が多く、避難する機会があまりない。避難場所(新木小、新木近隣センター)に来たのに、危険な場所が多いので地域に避難場所を作る体制を検討したい。
- ・自助、共助を中心に考えている。最近亡くなった方がいるが、世帯主は施設に入っていたため息子が亡くなって数日が経過していた。
- ・近所の付き合いの進め方がわからない。定期的に一人暮らしの方を把握する必要がある。
- ・小中高までは防災訓練をしていたが、大学生になってからはしていない。
- ・学校では子供達に安全な避難について日頃から訓練している。地域と学校の連携をどうとるか、災害が発生した時の連絡が困難。
- ・自治会長 2 年目。子供の力になれることがあるか、高齢化の地域でどのように自助/共助

していくかが課題。

・コロナ禍で行政は情報を発信しているが、受ける側の対応ができていない。スマホなどの活用もよい。

・新木小では子供発信であいさつすることの大切さを確認。進めていきたい。コミュニティの分断の解決も必要。

・地域で全ての子供/大人が毎日あいさつすることが大切。まち協で防災組織を作るのはどうか？

・近隣とおつきあいは、日頃からのあいさつ/会話が第一歩。自分から声をかけることが相手を理解することにつながる。

【2班】

(自主防災):10年前の大震災の時は、地元を回り家の屋根・施設を見回り、小学校の体育館に避難して最後は午後9時になった。

弱者はどこにでもいる、取組の具体的な動き、自治会・まち協などで動き出すことが必要。

(連絡方法):一昨年の台風19号の時に避難伝達方法、情報をいかに伝えるか連絡体系を整える事の必要性を感じた。

(普段の備え):自分で身を守れるのか、防災グッズはそのままになっている。

(普段の備え):我が家では普段使用する飲料・食料などを防災用として多めに貯めている。
(フェーズフリー)

(防災無線):防災無線が地域により違うようだが、聞きづらい。市で見直ししてほしい。

(共助周知):無線が聞きづらい。自治会で年2回ミーティングを行っている。高齢化で所帯が変わっている防災グッズなどを声掛けしている、皆が周知していることが必要だ。

(安否確認):高齢者の独居があぶない、自治会の回覧は良い安否確認の手立てになる。

(自助):共助に頼りがちになるが、3日間は自助で耐える。
地域の中でどの様な交流を取るか(顔見知りになる)
どの道を使い「避難」するか。

(普段の備え):我が家では水害の時の一次「避難」場所を決めている、最後は小学校に行く。

(共助):共助は人と人との付き合い。

大震災の時は学生で東京にいたが、話しには聞いている。近所・自治会班どうしのつきあいが必要だが自治会に入らない人が多い。ゴミ出し当番などで交流を図っている。

防災意識

(自助):フェーズフリーまたはフェイズフリー(Phase Free)とは、平常時と災害時という社会のフェーズ(時期、状態)を取り払い、普段利用している商品やサービスが災害時に適切に使えるようにする価値を表した言葉である。

・一次避難場所を決めておく(必ずしも避難所では無い)
(共助)・顔見知りになる。

・イベント・行事に参加、ゴミ出し当番、挨拶。

・自治会(防災会)、まち協で何が出来るか。

防災無線が良く聞こえない時市フリーダイヤル(電話:0120-031-676)で情報がわかる

【3班】

司会) 防災のテーマは大きいので、まずは学校の状況からお話してください

湖北中) 学校は地域との連携がなければならないが、なかなか実現できていない。

湖北中 PTA) 湖北中周辺は道が狭いので、水害訓練の親による引き取り時に車の渋滞が起きた。地元への迷惑になるので今後の検討材料です。このような課題を解決するには学校、父兄、地元との連携がカギなので話し合いなどを継続していきたい。

ルーチェ) ルーチェは年2回訓練をしているが、特に地域とのつながりを重視しており共同で動いている。ただしルーチェは老人施設なので簡単に避難所へ移動できないので、施設の中で長期にわたり過ごすことができるような工夫や、車いすで避難所まで移動するのはほぼ無理なため、地元の施設を検討している。また「自助」は自分だけでなく地域の中で考えることも重要だ。特に若い人たちとの「メールネットワーク」を創り活用をし始めている。参考までに「車いす」や「紙おむつ」があまればストックしておけば活用できる(車いすは荷物運搬用に、紙おむつはおむつ以外に利用できる)。

ふらりえ) 常日頃から地元の知り合いを増やしていれば「共助」に生きる。ふらりえに集まり仲間を増やすことが重要だ。

司会) 災害時はすぐに移動しないで、そこにとどまり「自助」でしばらく生活をする工夫も良い。例えば自治会館で地元の弱者が数日生活できるようにするなど。また学校の中にとどまることも大切で、この取り組みも今後の課題だ。

湖北PTA) 私の住んでいる南新木は若い世代が多いので、高齢者の多い新木野地区と助け合うなどうまく連動できないか。

新木団地) 町内でいかに防災意識を高めて共有させるかがカギ。

民生児童委員) 高齢者を助けるのは自治会が第一で、「自助」と「共助」をもっと充実させていきたい。

江蔵地) 災害弱者を助ける工夫をしないといけない。

まち協) 自治会でかなり突っ込んだ話し合いをしているが、まだ十分ではない。

まち協) 自治会が中心となるべきだが、役員は1年交代なので長期に運営できる防災会を目指したい。無理な場合は「防災プロジェクト」を創ったらどうか。その中に自治会員の専門家、例えば看護師、警察官、消防士、自治体職員経験者などが入る

工夫をするとよい。

ルーチェ) 災害時に医療や福祉の関係者がいれば助かるので、日ごろからリストアップをして連携を図っておけばよい。

まち協) 長期にわたり継続して活動ができる「防災会」を検討しているが、なかなか実現できない。リーダーとなる人材の不足や自治会内での啓発不足と思うが、とりあえずプロジェクトチームを発足した。自治会員宅の井戸の利用など成果も出つつある。

司会) 自治会内でマニュアルを作成したらどうか、その過程で話し合いが進み解決策も見えてくると思う。

今日は防災をテーマに第一回目の話し合いでした。いろいろなご意見ありがとうございました。

【4班】

- ・松風園自治会では、水や食料など期日が近づいたら配布して補充している。避難訓練は3年位前が最後で、コロナ後は実施していない。
- ・高齢者が多く緊急時にすぐ動けない。両隣2件での助け合い協力が基本となっている。災害時は各自で考えてもらうことが大切。
- ・上あらし自治会では積極的な活動はあまりない。お祭りなどで人が集まった際に消火訓練など。
- ・井戸のある家に発電機を持って行ってポンプで水を吸い上げる訓練を試みたが、重くて高齢者ではかなり困難があることが分かった。
- ・各家庭で3日くらいの水、食料を準備することが大切。高齢の一人暮らし、介護者もあり、不安だなどと思う。一人暮らしで気づいたらある日亡くなっていたというケースが時々ある。声かけ、見回りのようなことは大事だと思う。
- ・あらし野自治会では自主防災として常設委員会があり、委員を増やしていこうとして定期的に連絡会議を行っている。ふらりえ、みまもり、などと連携して活動している。
- ・あらし野自治会の中で活動するのは難しく別組織にしているが、賛否両論ある。自治会は班員構成が10~20人で防災観点では多すぎる。災害対策としては区分を細分化した方が動きやすい。
- ・南新木や新木野の付近をよく歩くが、庭などに出ていけば声もかけやすいが、家の呼び鈴を押すのはなかなかハードルが高い。
- ・高齢者に固定電話にかけても(詐欺などを警戒して)出てもらえないことが多い。若い人ならメールなどで連絡が取れるが、高齢者と連絡を取りづらい面もある。
- ・上あらし自治会はハザードマップでかなり赤い。地図を読む人は良いが、見てない人も多い。3m、5m というのがどの位なのか、立体的に見えると認識しやすい。ジオラマなどを作るのも良いかもしれない。
- ・例えば津波などの災害があった地域に行くと、電柱に浸水した高さなどを示している。災

害がなくとも、電柱などで高さを実感できるようなことを示すと良いのでは?行政とも相談してみると良いかも。住民に防災を意識させるきっかけとしてよいと思う。

- ・新木団地ではあらかし野と協力して防災訓練しているが、やはり高齢者が多い。いざというときに何が出来るか。常設で防災専門の若者たちをいかに集めていけるか、もしできれば非常に安心できるが。中学生、場合によっては小学生でも男の子なら我々よりも力がある。
- ・支援学校もハザードマップで赤い区域にある。災害時は新木小に避難することになっている。食料は各家庭から、各自が安心できるものを持ってきてもらうようにしている。避難訓練は定期的に行っている。月に1度くらいで、5分くらいで終わるような避難訓練を行っている。水害や震災などを考えると緊急時にどう動けばよいかのマニュアル的なものは重要だなと思う。
- ・今回の事例集は、意識を高めるのに役立つと思う。自治会であれば、班単位での話し合いなどを通じて声かけ、顔を覚えることも大切だと思う。またイベントを通して防災の意識を高めるような活動ができると良いと思う。
- ・台風の際に停電があったが、5時間でもとても不便。そのようなときのためにスマホの充電器(電池)などの準備がないととても困るという体験をした。高齢者は不安感も大きい。なってみないとわからないことも多い。
- ・多くの自治会は1年に1度くらい話し合いや防災訓練を行っている。大がかりだと手間がかかるが、班毎くらいの単位で小さく活動を継続するといざというとき役立つと思う。
- ・子どもたちも巻き込んで、簡単なことを毎月続けることは交流を深める意味でもとても良いことだと思う。集まった後、お茶でも飲みながら話をするなど、小さい範囲で知り合い助け合う、これも大事なことだと思う。
- ・气象台公園にある災害倉庫/備蓄についても、知らない人がほとんどなので月に一度くらい公開するのも意識を高めるのによい。また実際に何が備蓄されているか、市の方でPRするのも良いと思う。
- ・市民活動支援課としても市民の役立つ情報はどんどん公開していきたいと思うので、ご意見ありがたい。普段から家族で連絡方法を話し合っておくこと、水の確保なども大事だと思う。
- ・我孫子市では要支援者の名簿を準備している。自治会、民生委員、警察、消防、などにお配りしているが、個人情報なので協定を締結してほしいしている。自治会については数が多いため、まだ18~19自治会位になっているのでこれからになる。なお自治会によっては自前で作成しているため不要というところもある。
- ・地震と台風は分けて考えていただければと思う。地震はいつ来るかわからないので、各自で備えてもらいたい。例えば家の中で棚などが倒れないかなど。
- ・台風は気象情報がかなり詳しく分かるようになってきたので、市としても早め早めの対応できるよう、どのように避難警報を出したらよいかなどの協議を行うようにしている。
- ・個人的な意見としてTVで見た話ではあるが、人が避難行動をとる契機はTVやラジオ、雨

の具合、周りの人の動き、これらがないと中々動き出さないらしい。お隣や近所について意識的に気を付けていただけたら、非常にありがたいと思う。

〈終わりに〉

・地域会議事務局長 まとめ